

遠賀川水系遠賀川

Ongagawasuikei ONGAGAWA

自然な水路のような、魚道。

海と川の両方で育つ魚の生息環境を確保する上で極めて重要な役割を果たす、遠賀川河口堰の魚道。河口堰建設当時(昭和55年)に設置された既存魚道は、アユ、ウナギを対象に設計されました。落差が大きいことなどから、川底を這うように移動する魚や泳ぐ力の弱い魚にとって遡上が難しいものでした。そのため、生息するすべての水生生物が遡上できるよう、高水敷(※1)を利用して、落差のない自然な水路を整備し、魚道としました。

魚道では、汽水と淡水が緩やかな勾配でつながったため、それまで見られなかった汽水域で生息する魚種、ツチフキ等の比較的泳ぐ力の弱い底生魚などが見られるようになりました。また、魚道の横にワンド状の干潟も整備しました。干潟や魚道部で、多数の魚類や貝類など、汽水域の干潟や浅水域に生息する生き物が多く確認されており、ハビタットとして機能し始めていることが確認されています。

※1 水が流れているところ(=低水路)より一段高い部分の敷地。



N33度53分19秒 E130度40分28秒
(33.889,130.674)



Before



After

